

# エコ青果じわり

二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出枠をつけたバナナや低環境負荷をつたうキュウリ、食べられない葉の部分をおらかじめ取り除いてゴミ発生量を減らすパイナップルなど、環境に配慮した「エコ青果」が広がってきた。環境志向を重視する消費者に支持されているほか、取扱業者にもメリットがあるものが多く、種類が広がりそうだ。

佐賀県農業協同組合(JAさが)はCO<sub>2</sub>排出量を抑えたキュウリ作りに取り組む。地球に優しい「エコきゅうり」と銘打ち、11月から大阪や北九州などへ出荷を開始。武雄市など3市2町の36人で構成する佐賀みどり支部の部会が2001年から減農薬や減化学肥料栽培に着手。「安全・安心」を旗印に年間約1850ト出荷してきた。ハウスの暖房にかかる重油代が、従来の2倍近くに跳ね上がり、頭を抱えた支部がハウスの保温

## バナナ CO<sub>2</sub>排出枠付き

性を高める3層カーテンや、暖房効率を高めるための送風装置を導入。一部生産者は、ハウス加温にキュウリ栽培では全国でも珍しい低環境負荷の電気式ヒートポンプを採用した。青果物販売大手のドーブル(東京・千代田)のパイナップル「スウィーティオ・エコパイ」は、食べられない葉の部分を産地のフィリピンであらかじめ取り除いている。この葉を再び植えて育てると実をつけるため、有効活用になる。年間3万

## パイナップル 葉除きゴミ削減



1玉 300円前後と通常のパイナップルと同程度の価格で店頭(都内のスーパー)

トのゴミ削減につながるという。今年4月に発売。年間約8万トのパイナップルを輸入する同社でエコパイは5割を占めるようになった。葉を取り除く手間はかかるが、輸送コ

▼CO<sub>2</sub>排出枠 作物を育てたり、商品を輸送する際に排出するCO<sub>2</sub>の総量にあらかじめ目標を定め、達成できそうにない場合、国や企業から購入できる。購入代金を削減活動に使うことで、地球規模で排出量削減が可能で、商品に付加価値を付けるために利用されることも多い。日本は2008年から企業の自主参加で試験導入。05年に本格導入した欧州連合(EU)では罰則規定もある。

ストの削減でコストは相殺できるという。客の要望に応じて個々に葉を除去していた販売店にもメリットになる。輸入商社の住商フルーツ(東京・文京)が販売するのが、1房あたり1キログラムのCO<sub>2</sub>排出枠をつけたバナナ「自然王国エコ」。購入代金の一部が、個人や企業のCO<sub>2</sub>排出を相殺する事業を手がける「カーボンオフセットプロバイダー」を通じ、国連で認証された風力や水力発電などのCO<sub>2</sub>削減プロジェクトに資金提供される。輸送費などを含めても1房あたり500㌔を事実的に削減できる。

排出枠購入費用は1房あたり5円。店頭価格は1房250円程度と高めだが、昨年10月から今年11月末までに約230万円を売り上げた。高級果実販売の正明堂(浜松市)が販売する「エコメロン」(商標登録申請中)は今年3月から約100玉を売り上げた。インターネットを通じ1個5250円で販売している。ハウスを暖めるボイラーの燃料に重油ではなく間伐材を使い栽培。導入費用はかなり高価だが、CO<sub>2</sub>を吸収した間伐材を燃料にすれば実質的な排出削減になる。年間約1382トを削減できる見込みで、排出量取引制度を通して大手電機メーカーが買い取る予定だ。